

補助金を施設整備に

内容を精査し検討する



こまつ たかし
小松 孝年 議員

この補助金がこれらに使えるように検討できないか。

問 門田 産業推進室長

販路拡大など多くの成果を上げている。

問 町の独自事業である黒潮町産業推進事業補助金について事業効果と利用者の声はどうだったか。

この補助金は今までソフト事業が中心であったが、これからは新規設備の導入による作業効率の改善や販路拡大、また外国人旅行者が多くなってきたこともあり、トイレの洋式化や案内表示の多言語化、それから施設整備等の取り組みも今後、必要になってくる。

住宅改修補助

貸付金制度の導入を

商工会の制度で対応

問 黒潮町では、バリアフリー化、空き家住宅改修、耐震改修等々、住宅の改修に関する補助金制度は充実してきた。

以前は、こういった補助制度があっても補助額以上の資金力がないと補助を受けることができなかったが、数年前から施工業者への直接払いの方式(代理受領制度)を取り入れて自己資金がなくても使いやすくなったのは非常に良いことだ。

また、事業者から相談を受ける中で、備品購入に対する補助金の要望があり、今年度、事業の生産性向上に寄与する機器類や、新分野の事業の実施に必要な機器類等を購入する備品購入費を補助対象とした。

施設整備については、国、県等の補助制度にどういったものがあるか調査し、その補助金制度の内容などを精査して町補助金制度の創設が必要であるか検討する。

その反面、自己資金の少ない小規模業者にとつては、工事代金の受け取りが遅れると、自社の経営が苦しいのが現状だ。

出来高払いができるよう貸付金制度導入などの方策を考えるべきではないか。

答 徳廣 情報防災課長
近年の件数の伸びにより各設計事務所も事務量がが増えていますが、事務処理の短縮で工事完了後の早期支払いに努める。

また商工会等による資金の貸付制度等の活用と自己資本と併せた事業展開の検討を相談する。

致誘宿合

公設の宿泊所を

選択肢はある

問 黒潮町のスポーツツーリズムは、ここ数年で急成長してきたが、黒潮町のキャパシティでは今がピークと言っても過言ではない。現状のままでは、今後、目的達成前に下降線を描く可能性が高い。そうなる前に手を打たなければ手遅れになる。これまでの合宿誘致は観光シーズンの閑散期対策だったが、スポーツツーリズムというのは地元の観光と産業を結びつ



多く行われるようになった県外高校の合宿

けなければならぬわけ、観光と合わせた誘致をするには閑散期のみでなくシーズン中にも目を向けるべきではないか。そのためには公設の宿泊所が必要ではないか。

答 北岸 参事

指摘のシーズンを延長する施策の可能性は十分あり要検討の余地がある。

まずは、事業団体と町が話し合った上で将来的に公設民営型、または事業者に補助を出し、新しい宿泊施設を構えるという選択肢は幾つかある。